

雇用を促進する
次の産業団地開発を！



問 あがた駅南産業団地は予約分譲が順調に進んでいるとのことであるが、次の産業団地開発についてはその必要性も含め、どのように考えているのか。

市長 産業力が強化されれば人口減にも自然と歯止めがかかると思っている。農業やその他産業ともバランスを考えながら、切れ目なく産業団地の開発を考えていくことが本市のまちづくりにとって大変有効な手段だと考えている。開発手法等については、今後具体的に検討を始めていきたい。

◆小中学校のトイレの改善

問 本市では小中学校の校舎の耐震化や普通教室へのエアコン設置など、快適な教育環境の整備を進めてきたが、トイレの改善も必要と考える。今後どのような計画で整備を進めていくのか。

市長 トイレの改善については、かねてより学校・保護者から強い要望をいただいている。暗い、汚いなどのイメージを解消し、子供たちの笑い声が聞こえてくるような清潔感のある明るいトイレ環境を目指し、計画的な整備を進めていきたいと考えている。



▲洋式化された学校のトイレ（愛宕台中学校）

定住促進のために
住宅団地の開発を！



問 本市の定住人口を増加させるためには、若者や子育て世代に対する住宅団地の開発が大切である。春日市営住宅跡地を活用した大規模な住宅地造成に向け、どのように取り組みを進めるのか。

都市建設部長 同地は近隣に小学校や駅、商業施設も充実しており、医療拠点である足利赤十字病院にも近い。また、市道鹿島山下通りが完成すれば太田桐生インターチェンジへのアクセスも向上し、さらに好立地な一団の土地となる。若者や子育て世代の移住が期待できることから、平成29年度に土地の有効活用のための宅地分譲に向け、造成方法などの整備手法について調査を開始する予定である。



▲春日市営住宅跡地

◆空き家対策

問 放置された空き家は倒壊の危険や景観上の問題だけでなく、犯罪の増加にもつながりかねない。撤去に向けた取り組みをどのように考えているのか。

都市建設部長 危険な空き家は所有者に直接連絡し、適正な管理や撤去をお願いしているが、解決に至らない場合もある。平成29年度に空き家対策担当を設置することから、効果的な空き家対策に努めていきたい。

新駅整備事業の
目的実現について問う！



問 新駅整備の目的の第一に、交通渋滞緩和対策が挙げられている。その実現には疑問の声も多いが、具体的な方策をどのように考えているのか。

政策推進部長 全国平均で約20%の方が鉄道を利用して観光施設を訪れるが、あしかがフラワーパークの場合は約9%である。新駅整備により利便性をさらに向上させるなど、今後JR東日本や同園と連携を図りながら、さまざまな方策で鉄道利用を促進していきたい。

◆ごみ処理施策の推進

問 平成28年第1回市議会定例会の一般質問において、生ごみ処理容器のベランダdeキエーロの導入を提案したが、その普及促進について聞きたい。

生活環境部長 ベランダdeキエーロは木箱に入れた土中のバクテリアの力で生ごみを分解するもので、集合住宅等にも普及が見込めるが、サイズや重量、購入先などのさまざまな課題もある。現在本市では生ごみ処理機器設置費補助制度を設け、コンポストなどの設置を推進していることから、導入については先進自治体の取り組みも参考にし、調査研究していく。



▲コンテナを利用した自家製のベランダdeキエーロ